

2011. 2. 15

NP0フォーラム・だより No.39



NPO法人安房文化遺産フォーラム

代表 愛沢 伸雄

〒294-0036 千葉県館山市館山 95 小高記念館 TEL&FAX:0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト http://bunka-isan.awa.jp/ Blog 安房国再発見 http://ameblo.jp/awabunka1

知恵袋講座

…13:30～小高記念館 参加費 200 円、楽しい茶話会！

- ◎ 2月22日(火) 講師：幸田右子さん テーマ：旅館女将と八犬伝まんじゅう
館山銀座商店街の老舗・幸田旅館の三代目女将。実家(和田)は花農家で、戦時下の花作り禁止令のもと、命がけで花の種子を守った川名りんさんの孫娘。40歳を過ぎてから大学に進み経営学を専攻、1泊2食5,000円を実現し、旅館経営を立て直す。食と文化を大切にしたい観光振興を提言し、新商品「たてやま八犬伝まんじゅう」の誕生となった。試食会を兼ね、参加者の感想を次回作に活かしたいとのこと。乞うご期待。
- ◎ 3月22日(火) 講師：鄭^{フヨン}一^{イルジ}止さん テーマ：韓国人留学生から見た「たてやま地域まるごと博物館」
韓国馬山出身、東京大学大学院の留学生。工学部都市デザイン専攻で「エコミュージアム」を研究中。当NPOが推進する「たてやま地域まるごと博物館」構想に関心をもち、調査対象として研究論文を執筆予定。

第三海堡遺構移築記念シンポジウム&見学会

…主催：NPOアクションおっぱま

- ◎ 3月19日(土) 13:30～16:30 会場：横須賀リサイクルセンター「アイクル」講堂
基調講演＝原剛(防衛省防衛研究所員)
パネリスト＝高村聡史(横須賀市史編纂室)、伊東 孝(日大理工学部教授)
池田恵美子(NPO法人安房文化遺産フォーラム)

※第三海堡は、東京湾要塞の人工島(戦跡)。関東大震災で壊れ、海中に埋没。近年国が引き上げた遺構の保存が決定。

里見の道ウォーキング

…主催：里見氏稲村城跡を保存する会(問合せ:0470-23-5769 金久)

- ◎ 4月10日(日) 岡本城跡から宮本城跡へ ※2月11日(祝)の予定が荒天のため延期となりました。
戦国時代後期、房総里見氏の居城であった岡本城跡と宮本城跡を結ぶ山道を歩きます。
集合 8:45 南房総市 内房商工会駐車場(富浦駅から歩5分) 参加費 200 円 行程7km(健脚向)
解散 15:00頃(予定) とみうら花俱樂部「大津の里」 弁当・飲物を持参

ツアーガイド&講演のスケジュール

*スタッフ募集中! ガイド見習いも大歓迎。

- 2月19日(土) 11:30～16:30 戦争を許さないいいばらぎの女たちの会 25名 座学・赤山・かいた村
- 2月27日(日) 11:00～16:00 専修大学 8名 座学・赤山・かいた村
- 3月6日(日) 10:00～12:00 赤山地下壕無料ガイド
- 3月6日(日) 10:30～16:00 「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール 40名 座学・赤山・かいた村
- 3月10日(木) 東京水道労組退職会 10名 座学・基本
- 3月13日(日) 9:30～15:00 e-旅研究会:サイクリング&ウォーキング 北下台・赤山・城山
- 3月15日(火) 9:00～12:30 退職教職員関東ブロック学習集会 30名
- 4月3日(日) 10:00～12:00 赤山地下壕無料ガイド

【ご注意】 赤山地下壕は毎月第三火曜日が点検休業日のほか、4/10(日)、4/24(日)は豊津ホールが選挙投票所になるため、臨時休業日です。

◎青木繁没後 100 年 企画展 ～久留米・京都・東京～

- * 久留米展 2011. 3. 25 (金) ～5. 15 (日) 石橋美術展
- * 京都展 5. 27 (金) ～7. 10 (日) 京都国立近代美術館
- * 東京展 7. 17 (日) ～9. 4 (日) ブリヂストン美術館

国の重要文化財である名画《海の幸》を館山・布良で描いた画家・青木繁は、1911年に28歳の若さで逝去しました。「没後100年」にあたる本年は、各地で展覧会が企画されています。

当NPOが事務局を担っている「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」では、青木繁が滞在した「小谷家住宅(館山市指定文化財)」の修理・保存に関して募金活動を展開しています。「没後50年」に募金で記念碑を建立した先人にならい、今年は「没後100年」を記念して、修理を旨とした募金を全国的に進めたいと願っています。なにとぞ広くご支援をお願いいたします。なお、青木の故郷・福岡県久留米市では毎年命日供養の「けしけし祭り」が開かれており、今年3月27日には小谷家と保存会事務局数名で参加予定です。

【郵便振替口座】 00150-6-616201 青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

旧安房南高校の「木造校舎」を見つめなおす

2008年に千葉県立安房高校との統合に伴い、旧安房南高校(安房高等女学校・安房第二高校)の校舎は、学校としての役目を終えました。その後、安房高校の校舎改修に伴い一時使われていましたが、ほとんどは倉庫の状態です。校舎として使われなくなって4年が経過し、手入れもされないまま、だいぶ傷みも目立っています。木造校舎は、卒業生や旧職員ばかりでなく、地域住民にとってもかけがえのない懐かしい存在であり、1995年に千葉県有形文化財に指定されたことからわかるように、昭和初期(1931年)の校舎建築として大変に価値の高いものです。

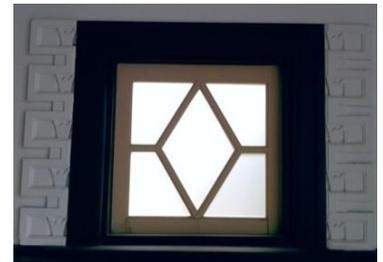
今後の活用が不透明なことを憂慮した同校旧職員有志によって、このたび校舎の見学会とシンポジウムが開かれました。次年度の扱いがはっきりしていないこの時期に、木造校舎が文化財である意義を再認識するとともに、貴重な建築物が地域においてどのような役割を果たせるのかを考える機会になりました。NPO安房文化遺産フォーラムも後援し、約130名の市民が参加して熱い議論が交わされたことは、まちづくりの新しい一歩となりました。



←校舎見学会につづき、シンポジウムのパネリスト
夏目勝也氏、船田正廣氏、伊東万里子氏

★ 木造校舎の思い出 … 伊東万里子氏 (安房第二高校第3回卒業生、劇団員の火主宰)

校舎はイキモノ、ただの建物ではない。人格ある校舎、魂がある。人を育てる教育の場として使いつづけ、校舎を育てていきたい。伝統技術や芸術、職業訓練の養成をすれば、雇用につながり、若者が住める街になる。歴史や文化を伝える場、語り合える場になってほしい。卒業生だけでなく、一般の人が見ても分かるような展示にすれば、観光的価値もでる。見学者から「せめて掃除だけでもほしいね」という声があがっていた。



★ 木造校舎の美しさ … 船田正廣氏 (安房南高校元美術教員、彫刻家)

かつて周辺の水田に影を映し、清楚にたった姿は、女子教育並びに郷土文化の殿堂に相応しいものであったに違いない。玄関前に立って見上げると、三角屋根がそそりたつ塔のように見える。大きく羽を広げた白鳥のように伸びやかな両翼の先端部に、直角に交わる軸を持っているのも特徴である。建物の厚みと奥行きを充分暗示させ、人を包み込んで安心感を与えている。

管理棟外壁部の「洗い出し」という技法の装飾や、玄関内部の漆喰技術、天井から壁部の垂直面にかけて湾曲する蛇腹仕上げなど、大変むずかしい技巧だという。天井裏には継ぎ目のない長尺材が使われており、輸入米材の書付があったという話だ。本校を建てるために、考えられないほどの大木材を、震災直後の大正期から準備していたということであり、教育に寄せる並々ならぬ計画と思わざるを得ない。

玄関扉は、19cm四方の小さな正方形ガラスが36枚ずつはめられている。1枚1枚がみな別々に入れてあり、気の遠くなるような仕事である。玄関内部にある明かり採りの「はめぐろし窓」(上写真)をはじめ、各所に正方形とダイヤ形の意匠を感じるとることができる。

建物内部は広く長い廊下が、伝統的に磨かれて光り、心地よい。天井も高くさっぱりしている。階段は勾配が緩やかで、ゆったり配列された欄干の装飾が美しい。支柱の頭頂部を宝形にカットし、その下を厚細材で鉢巻き状に回し擬宝珠を表している。角材は面取りされ丸やかな仕上がりで、歩行する時に触れると優しい感触である。配慮が行き届いた工夫や材料処理がされ、使い込んだ木の輝きと飾り過ぎない装飾がほどよい。住んでいる人間がその家の価値を識ることは、文化の一部である。



★ この魅力的な校舎をどう使いこなすか … 夏目勝也氏（建築家、日本建築家協会保存部会前部会長）

階段手すりに植物のすかし彫りなど、校舎には珍しい装飾が多く、女子校であることに対する作り手の心意気を感じられる。建物の目的は人命の安全を確保することなので、耐震・火災・避難などの安全性を最優先に、法令遵守することが大切。建物を、なぜ保存するのかではなく、どう活かすのかという使い道が課題。元々の用途である教育なら改修や維持費のリスクは少ないが、飲食店などの用途変更をするなら水回りや空調にお金がかかり、本格的な改修は数億円になるだろう。もとの形も崩れてしまう。

学校の歴史を考え、オーセンティシティ(真実性)を大切にすれば、そのままの形で校舎の存在として保存し、地域性を活かした教育の場として使うのが現実的。まちづくりを目的に、市民の熱意が高まれば、行政を動かす事例もある。演劇のスタジオ、アーティストを育てる場などもよい。

★ 会場から自由討論

• 塗装と屋根がボロボロなのが気になった。
• 大学の附属施設やセミナーハウスに使ってもらえないか。

• 建築物としても美しいので、美術館にしたい。安房には公設の美術館がないが、岩崎巴人さん、ジュンコ・シマダさん、伊東万里子さんなど郷土ゆかりの作品を常設展示したり、市民ギャラリー、カフェレストラン、生涯学習ができる場を含むような、総合的な美術館がいい。

• 資料室の展示が放置され、汚れていて残念。キレイに展示し、歴史をつむぐ場、安房の教育の保存の場にしたい。
• 文化人の展示場、語り合うサロンや、地域内外の人や移住希望者を応援するまちづくりの場に。
• グラウンドは公認野球場などスポーツ施設に。

• 書道、茶道、華道、演劇など、さまざまなアーティストが使えるアトリエに。子どもたちに、本物を身近に感じられる体験を還元したい。

• 作った人の心意気を伝えていきたい。
• 今日の見学会とシンポジウムは第一歩。これからが大事。
• 見学会を繰り返し開いて、もっと地元の人に感じてもらいたい。
• 子どもたちにも見てもらい、実際に木の床を踏んでほしい。

• 教育施設、文化施設など、活用方法の意見を集約、検討し、行政とともに考える場をつくりたい。
• 木造校舎だけでなく、鉄筋校舎、講堂・体育館・グラウンドなどを含めた有効活用を考えたい。
• 「旧安房南高の木造校舎活用を考える会(仮称)」を呼びかけていきたい。



はぎ
←同校同窓会「芳誼会」が、創立100年と統廃合を記念し、2008年3月に建立した銅像。袴姿とセーラー服姿の女学生。制作は船田正廣氏。

↓美術室と資料室





「空き」活用とまちづくり～廃校の利活用を考える～

去る12月14日、全国生涯学習市町村協議会主催で、廃校の利活用を考えるフォーラムが開催された。全国の事例紹介とともに、文部科学省施設部施設助成課の杉浦健太郎氏の提言があった。「本省では【みんなの廃校プロジェクト】を進めているが、正しい情報がどこまで住民に届いているか懸念している。いまだに住民の声を聞くというプロセスなく、自治体が計画を進めている現状もある。住民の声が反映した廃校の利活用は、地域活性化に欠かせない。皆さん、ホームページを見て、どんどん提案の声をあげてください」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm

* * * * *



当NPOの法人会員である㈱イコム(早川徹社長・さいたま市)が、安房山中の鴨川大山に、お試し田舎暮らしの施設をオープン！
 農的生活を、準備なしに、手軽に体験してみませんか。

天然村 1day 体験ツアー

3月5日(土) or 6日(日)

参加費 3,500円(小学生以下は無料) 昼食・おみやげ(しいたけ 500g)付
 … 農作業体験のため、軍手・長靴等を持参ください。JR 鴨川駅に送迎あります。
 ⇒⇒ 問合せ・申込みは、TEL:0120-109-156 Eメール info@tennemura



*** 村びと募集**

【会員特典】

- ①ご夫婦(パートナー)は宿泊無料
- ②天然村生成品(おみやげ)購入の割引
- ③有料ワークショップ(草木染め等)参加費の割引
- ④田舎暮らしや移住の無料相談
- ⑤「天然村事典」年間無料配布
- ⑥一般宿泊の無料招待券を年間12枚

【会員種別と金額】

- ①正会員 入会金 20万円 年会費 10万円
- ②平日会員 // 10万円 // 5万円

←← 詳しくはホームページをごらんください。

天然村

<http://www.tennemura.net/>